

I 実践

1 研究主題

差別や偏見をなくす人権尊重の精神を養い、一人一人が互いに認め合い、助け合うことのできる児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校は、「やさしく さとく たくましく 共に輝く大みかっ子の育成」を教育目標として掲げている。学校教育活動全体を通して人権尊重の精神を高め、差別や偏見をもたずに誰に対しても公平にふるまう生活態度を育てるため、学校を挙げて取り組んでいる。また、各教科・道徳・特活などの特質に応じた教育活動全体を通して、人権が尊重され安心して過ごせる学校・教室を目指し、地域の教育力の活用や体験的な活動の導入、学習形態の工夫に努めている。

本校の児童は、明るく素直であり、思いやりのある言動が多く見られる。しかし、自己中心的な行動や他者の考えや気持ちを受け入れられず思いやりに欠けた言動をする児童もいる。

そこで、学校の教育活動全体を通して、一人一人が互いを認め合い、思いやりの心をもって助け合うことのできる児童の育成を目指すため本主題として設定した。

(2) 研究の内容

ア 特別活動、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間を中心とした学校の教育活動全体における人権教育の充実

イ 豊かな体験活動の展開

2 実践内容

(1) 特別活動、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間を中心とした学校の教育活動全体における人権教育の充実

ア 道徳の授業の公開と情報モラル研修会

学校公開日に、全クラスで道徳の授業を公開している。担任は児童の心を豊かにするため、実態に応じた題材を設定し、よりよい授業展開の工夫を図っている。保護者が参観することで、児童への担任の思いや考えを共感し合うことができる。同日には、高学年と保護者が参加した情報モラル研修会も行った。インターネットによる人権侵害等の事例をもとに、どう行動すればよいのか親子で学習した。保護者のための研修会では、前年度よりも参加者が増えた。「スマホを持たせるための約束事をしっかり決めたい」と我が子がインターネットによる被害に巻き込まれないようにと願う保護者の声を聞くことができた。

イ 特活や外国語活動、総合的な学習の時間等の実践

(ア) 4年生

a 「レッツ トライ ボランティア」

高齢者や体の不自由な人の生活について学んでいる。社会福祉協議会の講師を招いて、車いすやアイマスク体験、盲導犬についての学習を行い、「自分ができるボランティアは何か」を考えることができた。

b 「郷土かるた」

地域の方を講師に招き、郷土のかるたに親しんだ。初めて聞いた日立市内の行事や名所に、驚きの声をあげる児童や笑顔でうなづきながら話を聞く児童の姿が見られた。



(イ) 5年生・6年生

a 「ワールドキャラバン」

県内在住の外国人講師に母国の紹介をしてもらい、ヨーロッパ（イタリア）の文化や言葉について学び、日本の文化との違いや理解を深めた。



(ウ) 外国語活動

全学年で行っている外国語活動では、外国語の学習を通して、その国の言葉や文化について体験的に理解し、コミュニケーションを図ろうとする態度を育てている。

ウ 帰りの会で友達への称賛

帰りの会では、各学年が実態に応じ、「ぼかぼかニュース」等、友達のよかったところや頑張ったところを発表する時間を設定している。

エ 異学年集団との交流（縦割り遊び、縦割り読み聞かせ、縦割り清掃）

毎月第3木曜日のロングの昼休みを利用し縦割り遊びを実施している。高学年による読み聞かせも実施した。年間2回、各回約1か月ずつ縦割り清掃も行なっている。どの活動においても6年生を中心に、異学年のメンバーが協力して活動する姿が見られた。上級生も下級生も互いにより影響を与えている。

オ あいさつ運動

全学年であいさつ運動に取り組んでいる。2か月に1回各学年が保護者と活動したり、本校卒業の泉丘中学校生徒と共に活動したりした。登下校の際に自分からあいさつする児童が増えてきた。

カ 募金活動

全学年で、誰でもできるボランティアとして赤い羽根共同募金活動に取り組んだ。今年度も、自分たちの住む町のために多くの募金が集まった。

(2) 豊かな体験活動の展開

ア 読書週間

本校では「年間一人50冊を読もう」の目標を掲げ取り組んでいる。図書館教育主任が中心となってアイデアを出し、児童の読書への関心・意欲が高まるようなイベントを企画した。今年度は、多くの児童が図書室を利用し50冊以上を達成した。

イ 大みか交流センター敬老会

毎年9月に行われている大みか交流センター敬老会では、3年生の児童が参加し音楽の発表を行って地域の方と交流している。今年度は、歌とリコーダー演奏を行った。児童が書いた地域の方々に贈る手紙も、地域の方にたいへん喜ばれた。

ウ 愛校作業

皆遊タイム（ロングの昼休み）を利用し校庭の清掃や花壇の手入れを行っている。学年単位で活動を分担している。学校をきれいにしようと協力する姿が見られた。また、季節ごとに、色とりどりの花を花壇に咲かせることができた。



3 成果

様々な活動を通して、児童は自分の大切さと他の人の大切さについて学ぶことができた。特に、異学年や地域の人々との交流、外部講師による講話等は、他者のことを考えるよい機会となった。

II 今後の課題

- ・ 人権について考える場や体験活動を更に充実させて、自己や他者を大切にする人権感覚を育て、日々の学校生活の中で実践できる児童の育成を図っていきたい。
- ・ 家庭・地域への啓発をさらに充実させて、学校・家庭・地域が一体となり人権教育に取り組めるように努めたい。